

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

夜蛾類（果実吸蛾類）の防除対策の徹底について

昨年は、夏季の夜温が平年より高かったため、夜蛾類の活動が活発になり、果樹では大きな被害が発生しました。本年の九州北部地方の3か月予報（福岡管区気象台、5月21日発表）では、向こう3か月（6～8月）の平均気温は高いと予想されており、今後、被害が発生するおそれがあります。

つきましては、下記事項を参考に、防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. 夜蛾類の生態

1) 主な種類は、アカエグリバ、ヒメエグリバ、アケビコノハ等である（写真1）。幼虫（写真2、3、4）は山野に自生するアケビ、カミエビ等を餌として生育する（表1）。成虫は日没後果樹園に飛来し、果実に小さな穴をあけ果汁を吸汁する（写真5、6）。吸汁された果実は、後に腐敗する。

2) 成虫は、早い種では5月下旬頃から発生する。いずれの種も、梅雨明け後に高温乾燥が続くと、活動が盛んになる。また、夜温が25℃以上の日が続くと被害が大きくなる。



写真1 アケビコノハ成虫



写真2 アケビコノハ幼虫



写真3 アカエグリバ幼虫



写真4 ヒメエグリバ幼虫

表1 夜蛾類幼虫の寄主植物

夜蛾類	寄主植物
アカエグリバ	カミエビの葉
ヒメエグリバ	カミエビの葉
アケビコノハ	カミエビ、アケビ、ムベの葉

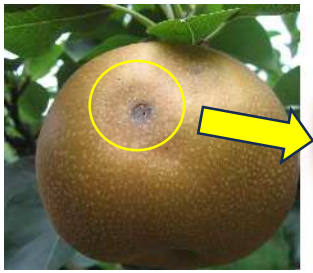


写真5 夜蛾による被害（ナシ）

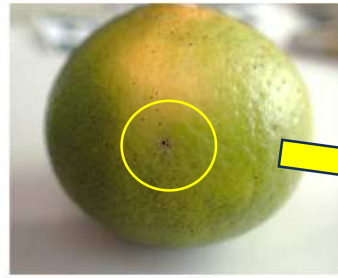


写真6 夜蛾による被害（カンキツ）

2. 防除対策

1) 物理的防除

(1) 防蛾灯の設置

①防蛾灯を設置することにより被害を回避できる（写真7）。夜蛾類の活動を抑制するためには、園内くまなく1ルクス以上の明るさを保つように設置することが重要である。光源は、黄色蛍光灯（波長600nm）を用い、日没直前から日の出まで点灯する。



写真7 防蛾灯を設置したナシ園

②点灯開始前に、きちんと点灯するか、園内の明るさは十分か（1ルクス以上）、点灯時間は問題ないかを必ず確認する。

(2) 防虫ネットの設置

網目6mm以下の防虫ネットで園周囲を被覆すると効果的である。

2) 耕種的防除

①果実の腐熟した匂いに誘引されるため、被害果や腐敗した果実は園外に持ち出して処分する。

②園周辺にある幼虫の寄主植物（表1）を除去する。

3) 薬剤防除

カンキツ・モモでは、夜蛾類による被害を確認したら薬剤を散布する（表2）。登録薬剤は残効が短いため、使用回数や収穫前日数に注意し防除を実施する。

表2 カンキツおよびモモで夜蛾類に登録のある薬剤

作物名	農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
かんきつ	ロディー乳剤	アケビコノハ ヒメエグリバ	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内
	アグロスリン水和剤	アケビコノハ ヒメエグリバ	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
もも	ロディー乳剤	アカエグリバ アケビコノハ	1,000~2,000倍	収穫前日まで	5回以内
	アグロスリン水和剤	オオエグリバ ヒメエグリバ			

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病害虫総合防除計画掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除セ QR コード*



防除計画 QR コード*

